

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成15年  
1月号

毎月23日発行  
通巻389号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成15年1月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★振替口座 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



大倭大本宮奥津齋庭 井手泉さん撮影(文・3頁)

昭和41年3月23日『すさのお』第3号より再録

## 幸福は自分の魂の中に

法主 矢追 日聖

あなたは何を信仰するか

本紙『すさのお』に二回にわたって私の思いつきを書いたのですが(※『おおやまと』での再録あり。第1号は平成11年1月23日第341号で、第2号は平成14年1月23日第377号で)、あなたたちはどうですか? 分かったでしょうか。分かってもらえば有難いと喜ぶのが世間並みの言い方ですが……。

私は折にふれて、私の書いていることが理解できたとしても、それが正直なところ、あなたたちは、有難いと喜んでくれるのだろうかどうだろうかと思うのです。

かりに、私が言う「カミ」や、主神たる「太加天腹大神」や「大倭」などの意味が分かったとしても、これらを知ることが、あなたたちの生涯にどれだけの喜びを与えることになるでしょうか? 考えたことがありますかね。

私は、喜びを最も多く持てる人間になりたいと願っています。願っていますから、私は私なりに喜びつつ日々を暮らすことができます。

このような人生最大の願い事を、人さまや、肉親の者や、神さんや、仏さんなどに任せるとしたら、それは危なくてとんでもないことになります。自分の魂にすぎない方法はありませんからね。自分の靈魂は、昼夜を問わず常に自分が幸福になるようにと動いているのですが、結果はどうも思わしくない人が多いようです。

人々は幸福になるために、どこかの宗

教団体の信者になり、信仰します。最近この傾向が目立ってきました。

幸福でありたいと願う心は誰でもあるでしょう。

幸福は何かにすぎれば来るものでしょうか？あるいは求めればつかめるものでしょうか？あるいは誰からか与えてくれるものでしょうか？あるいはお賽銭や寄付のように金品その他大切な物を提供すれば、その代わりに得られるものではないでしょうか？

一体、人々は何を指して幸福と言うのでしょうか？

若い人々の会話の中で、彼と、あるいは彼女と結婚できれば最高の幸福であるとか、貧乏人は金さえあれば幸福だと言い、子無しは子供がたとえ一人でもあればと言い、サラリーマンは月給が上れば幸福な生活ができるという。

このような意味の幸福であれば人々がいつでも持つている、ある欲求不満がかなえられたときの状態をさしているようです。この考えでゆけば反対に不幸は、ある不足不満の心で生活していることになりませぬ。

不幸をなくして、幸福になりたいと言えば、誰が聞いてもごもつとも、美しく響きます。言い方を変えると、日々、不平不満何一つ言わないような、そしてその上、自分の思惑は何でもみな、かなえられるようにという意味になるのですが、こう言えば必ず「どあつかましい」と言われるでしょう。

当世、はやりの宗教企業はこの種類の「どあつかましい」人々を待ち受けているのです。

## 宗教と宗教企業

世はまさに狐と狸の化かし合いのようですが、宗教企業が当たってゆくのをみると、信者の負け

ということになりますかね。

もしあなたたちが誤解されると困りますから少々付け加えておきましょう。

世界にある宗教は、宇宙の真理を説かれていいますから、これは尊いものです。そういうような神聖さを汚してはいけません。教主や宗祖、教祖と仰がれる立派な人物が、その源流となっているのですが、今の宗教団体の動きを見ると、宗教そのものはただ看板だけになって、組織を持ち企業化した特殊な団体に化けてしまったようです。

Aアヘン中毒者に近い信者は、自分というものを信者集団の中にとけ込ませ、団体の動きが自分の動きであるような心境になってしまっています。ここまで酔ってしまうと自分が入っている宗教団体やまた自分個人のことまで見えなくなるし、人さまの話も、聞き入れるという寛容な心がだんだん欠けてくるのです。

宗教は特に今の時代に最も必要なものですが、あなたにも持つようにすすめたいのですが、その窓口に居並ぶ宗教団体に対しては活眼を開いてよく視察するように私は心をつかっているということです。

せつかく宗教団体に入り、信者であると自他ともに認めているのに、肝心の宗教がつかめないで、その宗教団体が宗教の主体であるようにかん違いをしている者が多いのではありませんか。

## 御利益信仰

あなたはよく聞くでしょう、「私の宗教（団体の意）に入れば、救われます。御利益があります」という独善、排他的なすすめる声をね。

そして彼らは病で困っている家や、災難など不幸なことがあつて悩んでいる家庭に向かって信者獲得の手を伸ばしてゆきます。

信者の数が増えて大教団になって、人々の耳目を驚かすような大殿堂ができてくれば、その団体が言う宗教が一番立派なものになってしまします。

大金持ちで大邸宅に住んでいる人が偉いように見え、人々は又その人を偉い人のように扱う社会心理と相通するものがあるのでしょうか。いやなことですね。

信仰しているという人は沢山あります。あるものを絶対的なものとして信じていることですが、本当に信じられる人は幸福です。死ぬまで変わらないで、それ一本を信じ通すことのできる人は、ですよ。事実、あるでしょうかね。

あなたは大倭教の信人と思つていて、何を信仰しているのか考えてごらん下さい。

顕幽一体、相対一体という神ながらの理念ですか。それとも御本尊という太加天腹大神ですか。いや、こんな空なものではなしに、敗戦と同時に大倭教を創始した矢追日聖という変わり者ですか。

はつきりしないでしょう。であるのに離れないで続いているのはなぜでしょうか。

## 大倭教に独占物なし

あなたが信仰していると思つている大倭教も、現在沢山にある宗教団体と同じ立場で、即ち宗教学法人法による宗教団体として、宗教へ入る人々のために居並ぶ窓口の一つですよ。これは、大倭教団は、ですよ。

しかしその教えは、大倭教団だけが独占して持っているような特殊なものはありません。つまり、これだけは大倭教にあつて、よその宗教にはないというような秘宝のようなものはないのです。その代わり大倭教には、世界のいかなる宗

教とも融和し相通するものが、脈々としてその底を流れていると言えるのです。あなたは何が原因で大倭と結びついたか思い出して下さい。

おおよそ宗教との縁結びは、その人によって違っています。たいへん病氣、生活苦、事業不振といった悪条件を信仰によって良くしようとするところにあるようです。動機はこれで良いのですが、いつまでもこのままではつまらないので、更に一段と向上するように努めることは、自分のためになります。自分が幸福になりたいために信じているのですからね。

### 私の願い

私の願うところは、いつも申し込んでいるように、「大らかにして、和やかな」人間が集まって、仲よく暮らして死んでゆける社会ができることです。

こういうような社会の一員になれる精神的な人間をつくるために大倭教がなくてはならないものとなるのです。いや人間をつくるのではなく、いかなる人でも、そうした社会の一員になれる魂を生まれながらにして持っているのですが、生きるための色々な事柄が邪魔をして、美しい魂を汚れる

で幾重にもおおい包んでいるために、その汚れを互いに祓い洗うための場が必要となります。大倭教はその意味で現在社会にその存在の価値があると云えるのです。

### 肩流しの役割

大倭教は、矢追日聖の別名のようなものです。だから現世にあつて、私が生かされているということは、世の人々の心の汚れを祓つたり洗つたり、言わば風呂場の肩流しに等しい役割を持って生まれてきたからです。

私は、特定した大倭教の信人は、できないことの方を望んでいるのです。世間の宗教団体とは、この点正反対の立場にあります。人間一人の貴重な心を、一つの教団や宗派にくくりつけることは天与の人權を犯す思いがします。心は神のまにまにして自由でありたい。

人それぞれに個人差があります。自分から進んで自発的に、これが最良の宗教と思われた人は、どこの宗教に入られても別段差し支えはないのです。その代わり、信仰を続けている間にはいかなれば自発的に退散すればよいのです。私はこんな自由な心で入信してくる者を望みます。要は自分の人間的向上のためなんですからね。

一つの組織でしぼりあげ一色に塗りつぶして、幾万の信者を盲目にするような教団が、今の世に生まれるとすれば、それこそ社会の調和をむしろ損んでゆく恐ろしい癌となります。悲しいことです。信者になれば幸福になれると考えることは間違っています。

幸福はどこからも来ません。不幸に取り巻かれた自分の心の奥底からぼつぼつと出てくるものです。

(昭和四十一年三月十八日、日聖記)

### 表紙写真について●杉本 順一

昭和二十二年、宗教活動の大本宮(拠点)が現在の大倭紫陽花邑に移った時、祭祀の庭(霊時)とされたところです。四本の神は、瑞光院が建つ前、その場所に自生していたものを、法主様が神籬として植え替えられたものです。

## 法主帰幽祭 ご案内

日時 平成十五年二月九日(日曜日)

午後二時より

場所 大倭大本宮拝殿

現身はよくつるとも永久に

結ぶ心のかわるものか

日 聖

はやいもので法主様をご帰幽されて満七年になります。法主様との心のつながりは今も変わらない皆様ですが、世の中の変わり方は驚くばかりです。

この日を、己の心の原点を見直す日としませんか。

宗教法人 大倭教

### 大倭病院 ボランティア・グループ あじさいの箱

## 第12回 合同作品展の ご案内と作品募集

日時：平成15年2月27日(木)  
～3月1日(土)  
9:00から17:00(最終日は13:00まで)

場所：大倭病院 特設会場

作品申し込み 2月20日(木)まで

お問い合わせ ●大倭病院 杉本  
Tel. 0742-48-1515  
●あじさいの箱 湯浅  
Tel/Fax. 0742-48-3389

# 新年特集

多色彩に……

## 私のやすらぎ時

(先着順)

東京都小金井市 **山本 あき**

最近はなかなか時間がとれないのですが、畑の草むしりをしている時が一番やすらぎます。畑は自宅から車で1時間ほどの、山梨の山村にあります。畝と畝の間の雑草を一本一本抜いてゆきます。湿った土のにおいや感触がとてもいいです。クヨクヨと考えごとをすることもありますが、大抵はポーツとしながらやっています。疲れたなと思ったら、手を休めて四方の山々をながめます。

春の新緑、秋の紅葉、冬の枯れ山などがとてもきれいに見えます。1列終わってふり返ると、すごい達成感があり、イソイソと次の列に移ってまた抜きはじめます。小春日和の昼すぎ、夏の朝早くの草むしりは、本当にいい気分です。

三重県名張市 **福田 卓**

お婆さんが慣れた手つきで鉄板の餅をひっくり返す、こんがりときつね色した焦げ目から、かんばしい香りがた。だよう上賀茂神社横の「葵餅神馬堂」。丸い方にあん3個、細長い方にはきな粉2個で一皿、もち粟を蒸して搗いた粟餅で、創業300年を誇る北野天満宮鳥居前の「沢屋」。法主様が好まれた渡月橋傍らの「蓼きき茶屋」の桜餅。「魅喜」の魅まんじゅう等々、京都は日本一の生菓子処ではないでしょうか。

断続的な京都住まいが多かった私は、これらの名店を巡り、搗きたてのうちに店内で食べるのが何よりの幸せであり、私のやすらぎの第一でした。

そうそう徹夜の団体交渉が終わると、応接室に山積みされたお饅頭やおはぎ。それを想い浮かべながら耐えぬいたものです。現在は自戒し、年回数回訪れる程度に減りましたが、それに替わりシユガーレスコーヒーが新たに加わりました。

興にのり、松江や鳥取まで馴染みの店が増えていきます。よい店も多い名張市にあつて、165号線沿い赤目口にある「森の熊さん」、テーブルを塗り替えてほしい質素な店ですが、スポーツ紙を総て揃えています。阪神タイガース勝利の翌朝には真つ先に入店し全紙読み終わるまで、モーニングに始まりお替りをかきねコーヒー漬けになっています。アリアスの三振は許せても、片岡の凡打には腹がたち、嘆きと愚痴をこぼす私に付き合ってくれる妻にもリラックスタイムとなつていられるでしょう。金本の加入で核ができました。浜中、今中がさらに奮起して今年こそAクラス入りを狙いましょう。

東京都東村山市 **福本 真弓**

私が大倭にご縁を頂きまして、今年の1月6日で、8年目になります。もし、この時、大倭にご縁を頂いていなかったら、今、現在、現界にいることもなく、このように原稿に向かうこともできなかつたと思います。これは、ひとえに、法主様、鈴木かあさん、日元様をはじめ、大倭の皆様のお陰だと心より感謝申し上げます。

そして何よりも、私を、夜も昼もないというような状態の中でお世話をしてくださいました、双

葉館の高橋様、見田様に心より感謝申し上げます。私が思う心のやすらぎとは、あるがままの自分を受けとめることにより、はじめて得られるものではないかと思っています。自分の良い面、悪い面全てを見つめることができ、はじめて他人の良い面、悪い面をも受け入れることができる。そして、自分を受け入れるということは、自分自身もつて生まれた細胞一つ一つを愛するということでもあり、ご先祖様を大切に、愛することでもあると思います。

これらのことは、全て、法主様がおっしゃつておられた「自分の中の神様を大切にすること」ということ、「皆、仲良くするように」というお言葉につながつていくのではないかと思います。

人間の本当のやすらぎとは、単に自分自身の欲求を満たして得られるものではなく、自分自身を丸ごと受け入れ、自分もつて生まれたエネルギーを最大限に生かそうと努力し続ける中で、自分が現界において、どうして生まれてきたのか、どのように生きていくのかという役割に気付き、日々の生活の中で自分自身を生きていくことができた時に、得ることができるのではないかと。

そしてまた、自分自身を生きている時には、人と比べてたりする気持ちも起こらず、人に対する嫉妬心や憎しみの心が生じることはないということをも、さまざまな経験を通して学ばせて頂きました。

人生の中で起こる事柄は何一つ無駄な事はない。その中で何かを学び、人間性が向上していくものだと、今、しみじみと感じています。これからも、法主様のお言葉を実生活の中で生かし、自分に与えられた環境の中で、いかに自分を生かしていけるか、そして自然界の一部としての自分を見つめ、さまざまな自然の気の流れを受けとり感じながら、日々、精進させて頂きたいと思っております。



ありがとうございます。

拍手合掌

奈良市 **金(菅野) 昇久**

芸なし、学なし、お金なし、妻子持ちで、その上難題を抱えた私を、丸ごと受け入れて下さった大倭あじさい邑が、その時はありがたい、ふしぎな所だなと思った。色々あった末に、今村忠生さんのお導きで昭和42年末頃大倭へ入り、平成6年12月末まで27年の間生活させていただき第二の故郷になりました。

法主さま、かあさん、一門の皆さまに大いにお世話になりました。法主さま、かあさんより色々教えていただきましたが、身につけてないのが現実のようで、はずかしい限りである。

紆余曲折あつて日本永住が認められた時、法主さまは曰く「お前は世界一幸運児だな」とおっしゃいました。その頃の私の問題が、いかにむづかしい事だったかを語るものでした。実感でした。大変めづまれていたのです。

「めづまれ過ぎ」、これが要注意だったのに気がつかなくて、後でわかりました。焦りから火中の栗ひろいをしようとして大やけどをし、未だにその後遺症で苦労しているが、偶妻に助けられ、子供達に教えられているこの頃です。

それにしても大倭でお世話になりつ放しで何もお返し出来なかつたと反省するところです。

でもいつも、法主さまとかあさんに接した長い間のさまざま場面が思い出される時、和みを感じる。「神ながら」宗教の心で「足るを知る心で」「みんな仲よく」のお言葉が、私にやすらぎを与えて呉れます。皆さん、ありがとうございます。

徳島市 **近藤 充智**  
私は法主様から、昭和45年5月6日に祖先神を

頂いて帰り、それ以来毎朝、礼拝を致して居ります。法主様が幽界に行かれて以来、一緒に毎朝の礼拝が続いて居りますが、その時が「やすらぐ時」であると同時に、今日も一日元気でという時です。また法主様に頂いた色紙(※昨年8月号表紙写真)を観て居る時も、何となく心がやすまる気が致して居ります。「肉眼は虚像を見、心眼は実像を観る」のお教えを考えながら、未だ実像が観えず、己の愚を感じて居ります。

大阪府東大阪市 **吉田 眞孔**  
さだこ

私が大倭にご縁をいただいた早や五十年の歳月が経ちました。

今思えば、無我夢中で働き過ぎた半生の間、時にふれ折にふれて、親元に里帰るつもりで訪れる大倭。「ようおかえり」と合掌で迎えて下さる。ホツと落ち着く。積もりつもつた話を一気に法主様に打ち明ける。黙って全部聞いて下さる。身も心も浄化された心地になって又明日からの英気を養いました。

大倭で育つた当時の子供達は、聖歌「くにも」と「黎明大倭」を大声で歌いながら学校から帰つてきて拝殿の前で合掌、柏手を打つて、それぞれ各家庭へと帰つていた。この聖歌は、人生に力が湧く感じでした。

忘れられない年。息子が男の厄年に成つた。平成八年、玉緒祭を数日後に控えた一月末に伺い、法主様の容態を察せず、ただ息子の祈願をお願いしました。「そうか誠ちゃん、もうそんな歳になつたか。あの子はええ子や」と言われ、快く受けて下さいました。二月三日の玉緒祭にも、低い声でした。「みんな仲良くすることが大事や」と法話して下さいました。それから六日後、法主様は帰幽された!!

私も七十歳を過ぎ、やっと自由に行動できる身となつたので、月次祭にも参加して、法主様に届くような声で聖歌を歌う。「私のやすらぐ時」です。人に話す言葉は、もう一度自分に言つて聞かせている。浄らかな地下水の如く、人には親切に思いやる心だろうかなど。

少しでも社会福祉のお役に立つことが出来れば幸せと、ボランティアにも励みつつ、忙しい日々ですが、喜びと感謝の暮らしです。

「天命に安んじて 人事を尽くす」

奈良市(千代ヶ丘) **賀好 官捷**

私のやすらぐ時、それは間違ひなく週に1回土曜または日曜の早朝行うウォーキングの時です。短くて45分位、長ければ2時間位早足で歩きます。朝6時から6時半位に家を出ることが多いです。コースは自宅から出て自宅へ歩いて帰るのもあれば、往きは歩いて帰りはバスや電車というのもあります。大体7コースあります。

- ①富雄川コース…自宅↓霊山寺↓大和郡山北部↓砂茶屋↓自宅
- ②赤膚山コース…自宅↓赤膚山↓西ノ京(往復)
- ③学園前コース…自宅↓大和町↓学園前駅(往復)
- ④菖蒲池コース…自宅↓蛙股池↓菖蒲池(往||徒歩、復||電車)
- ⑤平城京コース…広大な平城宮跡内を徒歩(西大寺駅まで往復電車)
- ⑥佐保川コース…佐保川の堤を徒歩(新大宮駅まで電車)
- ⑦奈良公園コース…広大な奈良公園内を徒歩(奈途中神社仏閣やお地蔵さんがあれば手を合わせたり、喫茶店に入ってコーヒーを飲んだり、家へ帰って朝風呂に入ったたり、色々バリエーションを

楽しんでいきます。

このコースをウォーキングするようになって10年以上になりますが、きっかけは成人病対策です。人間ドックなどで血液検査でチェックするときすがに最近2、3ひつかかるようになりました。まだ歳の割りにはいい方だがと先生からは言われまです。それでも体脂肪率は17%位で、私の体型を見て「信じられないー」と驚く人も多いですが、これもウォーキングのお蔭です。「カモシカの脚」と自画自賛しています。

自然が豊かで史跡が多く、しかも都会の利便さを持つ所に住んで大いに幸せと感じています。

### 京都市 三宅 淳之

初めて法主さまにお会いしたのは今から14年前、私が19才の時でした。

「腹を立たせるな・優越感をもつな・劣等感をもつな。これをあなたのお経にすればいい。別な言葉でいえば、人を恨むな。剣でいえば、人を殺すな。あなたはおじいちゃんの気質をうけついでいるので、一本通しきつてしまいがちや。引くところは引く、押すところは押す。武道の心と同じやで」

「武道も治療も同じなんやで」

「真の宗教家なら、社会の一番底辺にいるべきだ。乞食みたいなな」

「ここに来て何のご利益もないんやで。真面目に働くのが一番の先祖供養や」

「どんな宗教でも、それを信仰しはる人の心が尊いねんから、その人をくさす必要もないし、大倭がけつこうやからと引つ張る必要もないんです」などと語って下さいました。

当時は何のことか全く意味が分かりませんでした。日々の生活の中で、法主さまから頂いたお言葉を思い出すときが、私の心やすまるときです。

### 群馬県安中市 桜井 節子

今、庭の山茶花が満開である。十月に県の茶会があった。八月の末下見に行き、その帰り、榛名町中里見の光明寺に千利休の先祖の墓があると聞いて、訪ねてみた。小さな宝篋印塔が幾つかあった。主は里見義俊という人である。さらに遡ると新田義重、源義家に繋がるらしい。このような場所に利休の縁があるとは驚きだった。

「お茶」を始めて十四年が経つ。まだまだ未熟だが、習い始めの頃は順序を間違えるなど緊張の連続であった。「お点前は水の流れの如く美しく」と教えられた。素直に一つ一つの形を丁寧に行っていくことで心が入り、次第に整えられていく。形に集中することで、心の余分なものが取り払われていく。それは心地良い瞬間である。特に、一席に集中した後の解放感は何とも言えず、一気に心を楽にさせる。

私にとって、その時は心やすらぐ時でもある。静寂の気の流れは、互いの気に働き、心の一体感を生むようである。それを実感した時、自己満足かもしれないが、茶の道を高めた利休の心に少し触れたような気がして嬉しく思った。利休が命を賭けて守ったものは、奥深く、気高い自然の美しさなのかもしれない。私にはそのように思えてならない。

少し寒さを感じる頃、釜から立ち上がる湯気は暖かく、季節を感じさせる綺麗なお菓子を頂きながら抹茶を含むその一時が、私にとっては何より快い時間なのである。これからも、この大切な一時を心安く楽しんでいきたいと思っている。

熊本県水保市 高倉 敦子

仕事中、車を運転しながら歌が出てきて嬉しい

時、忙しくて放つたらかしたった畑の草取りを終えた時、ひととのつきあいに疲れてしまい草の上に寝ころんでいたくなる時、ちよつとした行き違いの後、何事もなかったかのようにおとずれる家族団欒、突然夕日があたり一面を照らす時、争いごとがおさまった時、寝る前のふとんの中の読書、何があるうと天気の良い日には、やつぱり草の上で昼寝、手紙をたつぷり書いてもいい日、その手紙をポストに入れて行く時、争いの種をまかなかつた日、魂から出た言葉で語りあえた時、肉体労働の後の我が家のおふる(菓草入り)、子どもたちが学校から帰ってきた時、などなど。

「大事なことは目に見えないんだよ」と、サン・テグジュペリは言いました。だからこそ、この日常をていねいに暮らし、感じていきたいと、そんな風にこの頃強く思います。

### 東京都東久留木市 今井 房子

現在86才の私の、これは大変古い17才の時のことですが、未だに「思い出」が鮮明で忘れることがありません。

当時わが家は重態の父の死を目前に、私はもう不安でいっぱい毎日を送っていました。母の使いで、夕暮に家の近くの道を歩いていた時のことです。私はふと立ち止まりました。そうして突然気がついたことは――父はやがて亡くなり、その体は灰となり骨となったとしても、その父全体はどこへも行きはしない。すべて、この大自然の中に私達と共にあるのだ、と――言葉にはならないそのことが、私の全身に何か浴びせられたようによくわかつたのでした。私はどうしてか涙も出さず、急にそのことが『ありがとう』と言いたい位にわかり、父の死を素直に受け容れていました。そうして、その後の長い年月、何か心配な出来

事がある度、そのことは私にとつて、原点とも言えるような心の拠（よりどころ）となり、何かしらそこから不思議な「やすらぎ」を得ているのです。

私は長い間、誰にもずつと、そのことは言いませんでした。そして、そのこともあつてか、その後、大きな新しい進展がないことが何か物足りなく、今も求め続けているのです。

### 兵庫県美方郡竹田 済木 宏司

今から約20年前、大倭の住民でもあり大倭安宿苑の職員として約2年間を過ごした。夏になれば『法話』という事で法主さんのお話を聴く機会に恵まれた。お話を聴いた後、「心がやすらぐ」気持ちになった。ある時、上司から「腹が立つたら法主さんの顔を想い出さない。きつと腹が立たなくなる」とも言われ、元来短気な性格の私は、時々その通りにして心を落ち着かせた。

大倭安宿苑を退職し、郷里の兵庫県は但馬へ帰り、結婚した。結婚した翌年に妻を伴い、大倭を訪れて法主さんにお会いした。いつもと変わらぬ笑顔で「ようお帰り」と声をかけられ、かあさんも「よかつたなあ」と言つてくださった。話を終えて最後に私の方より「私達、子供ができるでしょうか?」と尋ねた。「あんだ、自分のこと普通と思つているか」「一応はそう思っていますか?」「ほな、できるやろ」と短い会話でしたが、これが法主さんと交わした最後となりました（平成6年3月下旬）。

その翌年、子宝に恵まれ、現在、一男二女の父親になりました。仕事から帰ると「お帰り」と出迎えてくれます。夜遅く帰ると寝ていることが多いですが、子供達の寝顔をみる時、「心がやすらぎます」。そして一日のつかれもふつとぶよぶよな気持ちもします。今もなお、福祉施設職員として

働く私は、いつの日か、愛すべき子供達と大倭を訪れたいと思つています。

### 大阪府堺市 杉立かよ子

主人と娘とで会話が弾んで仲良くしている時。家族が全員そろつて、ケガもなく病気もせず食卓を囲みながら、たわいもない会話を一日の終わりがある時。ただ無事に終わることだけでなく、自分自身が出来たことは精一杯努力する。一日の終わりが安心し、やすらいで深い眠りにつきます。わずかな言葉の行き違いでふいと話さない、コミュニケーションがなくなることは淋しくなります。ささやかなことですが家族のコミュニケーションがスムーズなことが一番です。

しかし、子供達はそれぞれが大人なのでもう見守つていただけです。

### 東京都世田谷区 得丸 久文

大自然に包まれて、そこに生命の存在を感じる。見えない生き物の存在を感じる。仲間たちとの読書会とともに読んだ本についての感想を述べ合うとき。ある本についての、新しい読み方、新鮮な解釈に触れるとき。

そんな時に、私の心は安らぐ。でも、日常的にも、心安らぐ時がある。たとえば銭湯に行くとき。私のアパートの前は銭湯だ。アパートにも風呂はついていて、私は銭湯に行く。銭湯は、聖地だと思う。そこは暖かいし、温まる。えらい人も普通の人も、皆生まれたままの姿に戻る。浴槽からあふれるお湯。水蒸気がかすむ視界。湯船に身を沈めて洗い場を眺めると、人は立ったり、座ったり、沈んだり。ランダムな動き。水の音、洗面器のカランコロン、人の声。ランダムな雑音。ランダムな音や動きは、心を安

らげてくれる。

これが露天風呂でもあれば、青空、緑の木々、風も感じる事ができ、最高だ。日本人が温泉、露天風呂好きなのもわかる。温泉や露天風呂に毎日入れる人は少ない。でも銭湯なら、都会に住んでいればきつと近くにあるのでは。

銭湯に行く時、体も心も洗われる。銭湯こそ、心が安らぐ時だ。

願わくば、この国から銭湯がなくなりませんように。東京では、銭湯は次々にマンションや住宅になって姿を消しつつある。私が今住んでいる富山には幸いなことに、まだまだたくさん残っている。／富山市・(財)環日本海環境協力センター

### 福井県勝山市 松本 知子

平成14年は、私にとって新しい事を始めた年でした。(有)神野花さき邑の設立、白山麓ガイアネットワークの結成、新しい店舗を2つ、おまけに三男が小学校に入学して久々のPTAの仕事……朝起きたらかけ足の生活です。そんな時こそ、やすらぐ時が必要なのだと思います。①ポーツとしている時、②園芸が好きなのでお花達と対話している時、③魂がよるこぶ時。

③の説明はむずかしいです。何かご縁のあるお仕事させていたいただいた時、「ありがとう」という波動といつしよに感じるんです。

昨年末、久々に大倭に寄せていただくことができました。魂のおやまとなのでしようか、とてもやすらいだ気持ちになりました。その時、初めてお連れした方から、「宗教は福祉である」という言葉は、あとあと私についてくることでしょう、とのメッセージをいただきました。ヒマラヤ杉、鳥のさえずり、雨だれの音を思い出し、心からご案内できて良かったと思えました。

# あじさい日誌

12月12日 千葉県柏市の小島紀江子さんが本でここを知ったという息子さんに代わって来邑されました。

12月13日 天平倶楽部で、大倭大本宮・大倭殖産(株)・大倭印刷(株)・(有)倭商の年末懇親会。

12月14日 大倭病院の忘年会が春日ホテルで行われました。

12月15日 大倭神宮月次祭。

12月21日 千葉の永長貴昭さんが1年ぶりに来邑。

12月22日 この日は冬至。門松も立てられ、邑と大倭神宮に迎春準備が整いました。

12月23日 大倭59年の元旦。す

ばらしい天気の中で日聖祭。昭和62年の日聖祭の法話ビデオが上映されました(昭和63年1月号『おおやまと』に掲載)。

午後恒例の直会演芸会。

12月29日 大倭会と紫陽花邑の共同作業で大倭神宮の大掃除。

色々話しながらの作業がよかつたと後でファックスしてくれた方もありました。

12月30日 年末恒例の餅搗き神事。子供達も競って小餅を丸めました。F I W Cの若い人達が今年も大勢来てくれました。韓国に留学中の委員長劉成道君も帰省中で参加、韓国語がとびかっ

ていました。

12月31日 夜11時40分から1夜、365日の清め祓いの太鼓

打ちが始められ、拝殿のひさしは若者で一杯になりました。

1月1日 大倭神宮において年始祭が行われました。

1月6日 午前11時から拝殿で、大倭各事業所の事務始め式。

午後、大倭神宮月次祭。

夜、大倭会館で、紫陽花邑の年賀の会が行われました。各家

庭からコンロや鍋を持ち寄つてのちゃんこ鍋は好評でした。

この日、横浜への帰省から戻つた昇ちゃん、風邪で熱があり一人暮らしだしということで大倭病院に入院。(15日まで)

1月10日 12月から邑に里帰り中だった中島健家の次女・井野佐緒里さんが無事、長男(智英ちゃん)を出産しました。

大倭安宿苑では

12月15日 奈良パークホテルで年末懇親会。4施設職員が一堂に会し親交を深めました。

(菅原園)

12月24日 年忘れ会。バイキング食、住苑者・家族・職員のお宝鑑定団、カラオケで紅白歌合戦、家族会会長のサンタクロース等の趣向で楽しみました。

口座番号：奈良信用金庫 学園前支店 普通0302639  
口座名：大本宮特別整備基金 矢追家麻呂

## 法主日聖師の奥津城造成への ご協力をお願い

大倭会会長 中西 正和

法主様が歸幽されまして早や満7年、今年も間もなく歸幽祭を迎えます。

ようやく大倭大本宮におかれましては、この度、平成18年の十年祭を目標に、法主様の奥津城の造成を計画されつつあります。私達は法主様から数多くの教えと、人間としての本分をご教示いただき、充実した日々を送っています。

十年祭には立派に造成されますことを願い、その資金の一部に各人の分に応じた誠を捧げたいと思います。早いかもしれませんが、下記に口座を設けましたので紙面を借りてお知らせいたしますと共に、皆様にご協力のほどをお願い申し上げます。 拍手合掌

平成15年1月吉日

記

口座番号：奈良信用金庫 学園前支店 普通0302639  
口座名：大本宮特別整備基金 矢追家麻呂

(須加宮寮)

1月9日 新年会で食事やゲーム。後、喫茶でぜんざいを頂きました。

(長曾根寮)

12月23日 直会演芸会に山口幸子さんがピアノ演奏で出演しました。



(八重垣園)

12月25日 俳句の会。「遅咲きを残して菊の季節去く」「枯葉落ち木の間に遠く町かすむ」

### 編集後記

▼故柴地則之さんと『大倭新聞』や『すさのお』を始めた頃は記事を書いて頂く方を見つけるのが大変でした。今はずいぶん沢山の方々から記事を送って頂けるようになって本当に助けられています。今年も、皆さんの色々な思いを送って下さい。「多色彩即調和」の教えに従って我田引水にならないようにしていきたいと思っています。(P)

# あんない

\*玉緒祭(大本宮)

2月3日(月)午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

玉緒祭は宇宙根本神霊と人間の本霊との結びを感謝するお祭り。玉は命を、緒はひもを言う。

\*月次祭(大倭神宮)

2月6日(木)午後2時より大倭神宮にて。

\*法主帰幽祭

2月9日(日)午後2時より大倭大本宮拝殿にて。(3頁参照)

\*大倭会主催第四一回禊衣 2月9日(日) 禊ぎの心で、各自、帰幽祭にご参加下さい。

\*月次祭(大倭神宮)

2月15日(土)午後2時より大倭神宮にて。

\*申孝祭と月次祭(大本宮)

2月23日(日)午後1時より大倭神宮にて申孝祭が、2時より大倭大本宮拝殿にて月次祭が行われます。

申孝祭について詳しくは、『やわらぎの黙示』の「日本精神の源流—長曾根邑のすめらみこと」や『おおやまと』の平成元年3月号等を読みたい。

神武天皇が即位四年後、大倭神宮のある場所で「大孝を申べ」られた故事を記念して、大倭教では報恩感謝のお祭りとして行われる。大倭神宮には「金鶏靈時鳥見山中聖蹟」の碑がある。